

## 新規ゼミ生（第8期生）のご挨拶

第8期ゼミ長 荻野 真央

OB・OGの皆様、はじめまして。小野晃典研究会第8期ゼミ長の荻野真央です。小野ゼミも2011年3月で創立10周年となりました。小野ゼミに入会し、そのような記念すべき年に現役生として立ち会うことができ、また、この紙面上にてOB・OGの皆様にご挨拶をさせて頂くことができ、大変うれしく思っております。私達第8期生は、OB・OGの皆様が築き上げられた小野ゼミの伝統の下で、小野ゼミ生としての自信と誇りを糧に、日々ゼミ活動に精進しております。



そもそも、小野ゼミの伝統とは何でしょうか？『小野ゼミらしさ』とは何でしょうか？他ゼミを圧倒するグル学の利用時間？「キンコーズに急げ！」？人によってその定義は違うかと思いますが、私は、『小野ゼミらしさ』は、3つの特徴に集約されるのではないかと思います。1つ目は「切磋琢磨できる仲間」、2つ目は「ゼミ生主体の風土」、そして3つ目は「熱意溢れる先生」です。以下では、この3つを切り口にして、本年度のゼミ活動を振り返り、小野ゼミの伝統について綴らせて頂きます。

「切磋琢磨できる仲間」——私達8期生も例に漏れず、個性溢れる者が集まりました。ケースやディベート、三田論執筆などで議論に議論を重ね、この1年、誰よりも多くの時間を共に過ごしました。こうして私達8期生は、共に励まし、支え合うことのできる、かけがえのない仲間同士となることができました。そんな仲間と過ごすからでこそ、私達はゼミ活動を心から楽しむことができたのではないかと思います。

「ゼミ生主体の風土」——本年度も、ゼミ生がゼミ運営の主体となり、入ゼミブログの設立、商学部を代表してのオープンキャンパスでの講義、英語での論文執筆など、様々なゼミ活動を行ってまいりました。「やりたい」が実現できる風土があったからこそ、8期生はモチベーションを無限にまで高め、小野ゼミを「エグゼミ」と揶揄されるまでにゼミ活動に熱中させることができたのではないかと思います。

「熱意溢れる先生」——本年度は、三田祭直前、2夜連続で先生宅のパーティールームをお借りして、三田論執筆合宿が行われました。小野先生はご自身の都合も省みず、夜通し私達の研究に付き合ってくださいました。誰よりも小野ゼミを愛し、小野ゼミのことを気にかけてくださる小野先生の熱意溢れるご指導あればこそ、8期生はさらなる高みを目指し、それを達することができたのではないかと思います。

私は、この3つの『小野ゼミらしさ』が渾然一体となって、小野ゼミの伝統を形作ることによって、小野ゼミ生に自信と誇りをもたらすのだと思っています。私達8期生は、この良き伝統を継承して活動してまいりました。来年度も、この伝統を9期生——次代の小野ゼミ生にも、引き継いでもらうべく、一層、ゼミ活動に励みたいと考えています。

さて、本年度も、OB・OGの皆様には現役生とともに小野ゼミの活動を盛り上げて頂きまして、誠にありがとうございました。とりわけ、夏合宿には、普段のゼミでもご指導をいただいている大学院生の千葉貴宏先輩（第5期）、池谷真剛先輩（第5期）、窪田和基先輩（第6期）、に加えて、高木研太郎先輩（第3期）、田中成幸先輩（第3期）、横山嵩先輩（第3期）、有吉智彦先輩（第5期）、石川大二郎先輩（第5期）がお越しになり、第3期の先輩方にはご講演をいただき、また、第5期の先輩方にはレクリエーションに参加してくださいました。また、恒例の三田祭研究展示の際には、上記の諸先輩に加え、白木俊介先輩（第1期）、森岡耕作先輩（第3期）、河野智晃先輩（第5期）、田中照太先輩（第5期）、浅坂絵美先輩（第6期）がお越しくださいました。さらに、12月に行われました第2回オープンゼミには、松山昌司先輩（第5期）が駆けつけてくださり、2年生へ向けて「小野ゼミでの経験が社会に出てから、どのように役立つのか」をテーマに講演してくださいました。また、1月に行われました本年度最後の本ゼミでは、高橋昌代先輩（第5期）、およびお勤め先の森永乳業株式会社の社員様が、ゼミに訪問くださり、ケースメソッドに対してご講評をいただきました。そして、今こうして、OB・OG総会、あるいは、OB・OG会誌を通じて、多くの先輩方に8期生はご示唆をいただく機会を得ることができました。OB・OGの皆様には、今後もお世話になることがあるかとは思いますが、小野ゼミへの変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。



第3回入ゼミ説明会にて（著者は前列右から2番目）

次ページからは、第8期生の簡単なプロフィールを掲載いたします。現役生との交流の一助になれば幸いです。